

2019-6-1
No.1041 500円

思想運動

天皇代替わりをめぐる労働現場 2~3面
改元ファシズムに抗して(萩尾健太) 4面
関西生コン支援「東海の会」立ち上げ 5面
革命60周年のキューバを訪問 6~7面
大阪ダブル選挙の結果について 8面
[エッセイ]映画『希望の灯り』を観て 10面



「団結・献身・勝利」と書かれたメーデースローガンの横断幕をかかげて行進するキューバの労働者たち(五月一日、ハバナ 関連記事六・七面)

『思想運動』読者拡大月間実施中！
紙面改善に向けたアンケートに協力を！

「野党統一？」と天皇代替わり

統一地方選挙に見る日本の政治構造

来る七月の参院選は、改憲勢力が引き続き憲法「改正」の発議に必要な三分の二の議席を確保するの、改憲反対勢力がそれを阻止することができかねる最大の争点として戦われる。

参院で三分の二超の議席があるいまのうちに改憲を発議し、二〇二〇年に「悲願の憲法「改正」」を成し遂げようとする安倍政権は、真相を隠蔽、統計不正など、真相を解明し、すべからず、真実を明らかにせよ、と野党に訴えている。野党は、この訴えに呼応し、安倍政権の不正を暴き出し、真相を明らかにせよ、と野党に訴えている。

与野党対決の落とし穴

野党は、一月末、全国三ある一人区候補者一本化で合意したものの、現時点で話が進まなかった。五月九日、衆院本会議で採択された決議は「天皇皇后陛下の御代は、御清祥と令和の御代の末永き御安楽をお祈り申し上げます」と天皇の治世が永遠に続くことを国民の共産と組むことへの抵抗が立ち上った。現に、熊野元政が「国民の代表」の名において表明していた。一方で、与野党対決を呼号しつつ、他方で野党一致と天皇制賛成の片棒をかつく異常事態が繰り返された。

「九条改憲」の争点化

五月三日、安倍は日本会議系シンクローの「NHKから国民を守る党」は、七議席を獲得した。自民党は区議選で二〇議席を失った。これは、全議席で二〇議席を上積みする強さを発揮した。

「九条改憲」の争点化は、これに引き替え旧民主系の不振が目立った。立憲と国民民主(以下「国民」)は前半戦で三三議席を獲得したが、前回の三九一議席から二五〇議席に減った。後半戦でも持ち直したとはいえず、勢の伸び悩みは覆うべくもなかった。

自公優位は揺るがず

本紙の基本的立場を明らかにしておこう。

われわれは議院選挙の重要性を認める。しかし、それと同時に、労働者人民の政治闘争を議院選挙に閉じ込め、矮小化する議院至上主義への批判的観点を置く。大衆的政治闘争の展開が主であるべきである。それがあってこそ選挙でも前進する保証となり、確固たる橋頭堡を築くことができる。こうした立場が、「現実」の諸関係と乖離していることはもとより承知しているが、この乖離をいかに縮め、かがわが労働者運動のつねに「与野党対決」という対比に